

小 学 校

令和5年度

# 教育研究員研究報告書

社 会

東京都教育委員会

## 目 次

I	研究主題設定の理由	1
II	研究仮説	2
III	研究主題に迫るための具体的な手だて	2
IV	研究の方法	2
V	研究構想図	3
VI	検証授業	4
VII	研究の成果と課題	16

## 研究主題

# 思考を深めるための知識を習得する児童の育成

## ～「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実～

### I 研究主題設定の理由

『令和の日本型学校教育』の構築を目指して～全ての子供たちの可能性を引き出す、個別最適な学びと、協働的な学びの実現～（答申）（中央教育審議会 令和3年1月26日）（以下、「中教審答申」と表記。）では、社会の変化が加速度的に増し、複雑で予測困難となっていることを指摘した上で、「多様な人々と協働しながら様々な社会的変化を乗り越え、豊かな人生を切り開き、持続可能な社会の創り手となることができるよう、その資質・能力を育成することが求められている」と述べられている。中教審答申で育成が求められている資質・能力は、小学校学習指導要領社会で目標とされている「平和で民主的な国家及び社会の形成者に必要な公民としての資質・能力の基礎」とも関連が深く、特に「持続可能な社会の創り手となること」は、社会科における「公民としての資質・能力」につながる部分が多い。

公民としての資質・能力の基礎を育成するためには、社会科の学習における「思考力・判断力・表現力等」に着目し、児童の思考を深めることが必要であると考えた。これまでも児童の思考を深めるための工夫は数多く研究・実践されてきた。例えば、問い直しのための発問をしたり、資料を様々な視点や立場から多角的に考えさせる発問をしたりする工夫がある。それでも、思考を深める授業では、限られた児童のみが考えを深めている場面が多く見られている。全ての児童が思考を深めるためには、全ての児童が社会的事象等に関して理解を深めるための、基礎的・基本的な知識を習得する必要がある。この知識を活用して、思考を深める児童の育成を目指したいと考えた。よって本研究の主題を「思考を深めるための知識を習得する児童の育成」と設定した。

また、中教審答申で「授業の中で『個別最適な学び』の成果を『協働的な学び』に生かし、更にその成果を『個別最適な学び』に還元する」と指摘されている部分に着目して、具体的な学習の様子を協議した。児童が主体的・意欲的に調べられるように、自分で学習する環境や資料を選ぶことができる場を設定する。児童が自分で学習する環境や資料を選びながら調べる場面でも、分からないことがあれば友達に聞いたり、教師に質問したりすることができる。そうして集めた情報を共有したり、整理したりすることで、異なる考えが組み合わせられて、思考を深めるための知識がそろい、思考することができると考えた。また、集めた情報を共有したり、整理したりし、次時以降の個別の調べ学習や単元の後半の問題解決に活用することで、知識を着実に習得することができる。このように社会科における知識を習得する学習場面と、その知識を活用しながら思考する学習場面では、「個別最適な学び」と「協働的な学び」を関連させながら指導することが効果的だと考えた。そこで、児童の「個別最適な学び」と「協働的な学び」を一体的に捉え、思考を深めるための知識の習得につながる手だてを構築することを本研究の目的とした。そのため副題を『個別最適な学び』と『協働的な学び』の一体的な充実」と設定した。

## II 研究仮説

児童が自ら学習する環境や資料を選び、主体的・意欲的に調べ、調べたことを整理・共有することで社会的事象等に関して理解を深めるための知識を習得すれば、思考を深めることができるだろう。

## III 研究主題に迫るための具体的な手だて

### 1 問いや学習計画の明確化

児童の主体性を高めたり思考を深めたりするために、「問い」や「学習計画」を明確にすることで、「何」を調べるのかの見通しが立ち、より問いを意識して、資料や自分に合った方法を選択しやすくなると考えられる。

### 2 児童の「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実

#### (1) 主体的・意欲的に調べ方を選択できる学習 (学習環境・資料を選択できる調べ学習)

児童が調べ学習をする際に、「学習環境」や「資料」を選択できるようにする。本研究では、「学習環境」の選択とは、「一人で調べる、小グループで調べる（話し合い可）」、「自分の席で調べる、違う場所で調べる」を想定し、「資料」の選択については、「教科書・副読本から調べる、資料集や地図帳などから調べる、一人1台の学習者用端末を活用して動画や指定のWebページで調べる」などを想定している。このような場を設定することで、児童はより主体的・意欲的に調べ学習を進めることができると考えられる。

#### (2) 社会的事象等の知識の整理・共有場面の設定 (知識の整理・共有場面)

「学習環境・資料を選択できる調べ学習」の後に、本時の問いの解決に必要な社会的事象等に関して理解を深めるための知識を、整理・共有する場面を設定する。このことにより、より多くの児童が知識を習得することができると考えられる。

#### (3) 知識を活用して思考を深めるための工夫

児童が思考を深められるように工夫をした。例えば、前単位との関連を意図的に図ったり、全体で知識の整理・共有をする場面で、「社会的事象の見方・考え方」を児童がより働かせることができるような発問や資料提示等を考えたりした。その際、児童が習得した知識を視覚的に認識するために、単元内容や発達段階に応じてデジタル機器を活用することも効果的であると考えられる。

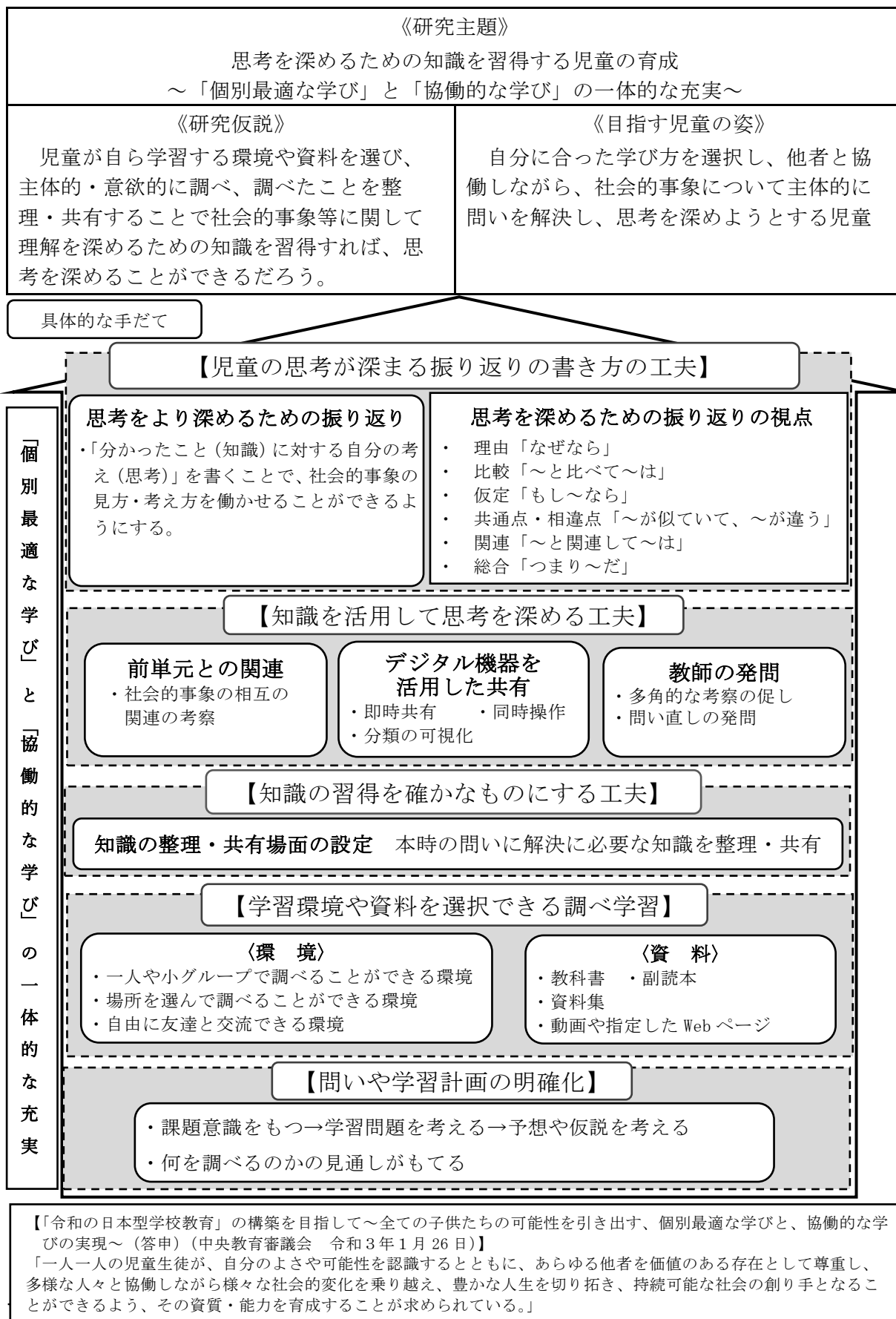
### 3 児童の思考が深まる振り返りの書き方の工夫

児童の思考がより深まるように、「分かったことに対する自分の考え」も記述するように指導し、「社会的事象の見方・考え方」を働かせることができるように、「理由」「比較」「共通点・相違点」「仮定」「関連」「総合」などを視点として、児童の言葉で例示する。例示により、一単位時間の振り返りで児童の思考が深まるだけでなく、「学習問題に対する自分の考え」も深めていくことにつながると考えられる。

## IV 研究の方法

単元終了後に児童のノート記述をデータ化し、その内容から、調べ学習が児童の思考にどのような効果を与えたのかを分析した。また、単元の始めと終わりに児童へアンケートを実施し、調べ学習時の学習形態や内容理解、意欲等を分析し、仮説の有効性を検証した。

V 研究構想図



## 1 検証授業① 第3学年

(1) 単元名 「店ではたらく人々の仕事」

(2) 単元の目標

販売の仕事について、消費者の願い、販売の仕方、他地域や外国との関わりに着目して、見学・調査したり地図などの資料で調べたりするとともにその内容を白地図などにまとめ、販売に携わっている人々の仕事の様子を捉え、それらの仕事に見られる工夫を考え、表現する。販売の仕事は、消費者の多様な願いを踏まえ売り上げを高めるよう、工夫して行われていることを理解できるようにするとともに、主体的に学習問題を追究・解決しようとする態度を養う。

(3) 教材観

本単元では、児童の生活経験を活かすことができるように、身近なスーパーマーケットを教材として取り上げることとした。課題把握の場面では、家庭の買い物調べを通して、スーパーの来客数の多さをつかみ「スーパーマーケットの人は、多くのお客さんに来てもらい品物を買ってもらうために、どのような工夫をしているのだろう。」を学習問題とした。課題追究・解決の場面では、主体的に調べられるように「学習環境・資料を選択できる調べ学習」を活用した。また、消費者として買い物の工夫や願いを今後の自分の買い物に活かせるようにまとめを行った。

(4) 研究主題に迫るための手だて

ア 問いや学習計画の明確化

「誰が」「どのように」を予想の視点とし、児童が考えた予想を「売り場の工夫」「品物の工夫」「働く人の工夫」「買う人のねがい」と分類した後に学習計画を立て、1単位時間ごとに調べる内容を明確にした。

イ 児童の「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実

(7) 主体的・意欲的に調べ方を選択できる学習 (学習環境・資料を選択できる調べ学習)

主体的・意欲的に取り組むことができるように、本単元では、資料を読み取る方法(紙面・デジタル画像・動画)と学習環境(人数・場所)を選択させた。資料を読み取る視点として、社会科における見方・考え方を分かりやすい言葉にして提示した。

(4) 社会的事象の知識の整理・共有場面の設定 (知識の整理・共有場面)

思考を深めるための知識の習得に漏れがないように、児童が調べた仕事の工夫について全体で整理し共有した。その際に、簡潔に分かりやすくするために出た工夫を分類し「棚の工夫」「値段の工夫」「注文・管理の工夫」というようにキーワード化した。

(ウ) 知識をつなげて思考を深めるための工夫

消費者の願いと販売する側の仕事の工夫を関連付けたり、自身の生活と関連付けたりできるように「誰が」「何のために」「どのような思いで」という問いを設定した。

ウ 児童の思考が深まる振り返りの書き方の工夫

振り返りの中で児童が「知識(分かったこと)」と「思考(考えたこと)」を明確にできるように、「お店の人は～という工夫をしていた。」「自分は、～と考えた。」という話型を提示した。また、振り返りの視点を例示することで、より思考を深められるようにした。

(5) 単元指導と評価の計画(11時間扱い)

時	ねらい ○主な学習活動	□資料 評価【評価規準】
1 (本時)	<p>小金井市ではたらく人々の特徴などに着目して、自分の生活との関連を考えられるようにする。</p> <p>○小金井市で働く人々は、どのような仕事をしているのか、また、どのような仕事が多いのか、写真とグラフを見て、自分の経験と関連させて話し合う。</p>	<p>ノートの記述や発言から「小金井市ではたらく人々の特徴などについて、自分の生活との関連を考えようとしているか」を評価する。【態】</p> <p>□グラフ「小金井市の人々の仕事」(「わたしたちの小金井」以下「副読本」という。)</p> <p>□写真「小金井市で働く人の様子」(副読本)</p>
2	<p>「消費者の願い」に着目し、買い物の様子を調べる計画を立てられるようにする。</p> <p>○お店での買い物経験を振り返り、どこで何を買ったのかを話し合う。</p> <p>○家族の一週間の買い物について調べ、分かったことを「買い物調べカード」に記入する。</p>	<p>ノートの記述や発言から「消費者の願いに着目して家族がよく買い物をする店を調べる計画を立てられたか」を評価する。【知】</p> <p>□カード「買い物調べ」</p>
3	<p>買い物の様子について調べたことを「買い物地図」や「買い物グラフ」にまとめ、気付いたことを話し合えるようにする。</p> <p>○「買い物調べカード」を基に、「買い物地図」や「買い物グラフ」をつくり、気付いたことを話し合う。</p>	<p>ノートや買い物カードの記述から「家族の買い物の様子について、気付いたことを表現できているか」を評価する。【思】</p> <p>□地図「買い物地図」(副読本)</p> <p>□グラフ「買い物グラフ」</p>
4 ・ 5	<p>スーパーマーケットの仕事について予想や学習計画を立て、解決の見通しをもてるようにする。</p> <p>○スーパーマーケットの売り場の絵を基に、売り場の様子について調べ、多くの買い物客が来るための工夫を話し合い、学習問題をつくる。</p> <div data-bbox="272 1406 938 1541" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>スーパーマーケットの人は、多くのお客さんに来てもらい品物を買ってもらうために、どのようにふうをしているのだろう。</p> </div> <p>○学習問題について予想し、学習計画を立てる。</p>	<p>ノートの記述や発言から「スーパーマーケットの仕事に着目して問いを見いだしているか」を評価する。【思】</p> <p>発言やノート記述から「スーパーマーケットの仕事について予想や学習計画を立て、解決の見通しをもっているか」を評価する。【態】</p> <p>□絵「お店の様子」(副読本)</p>
6 ・ 7	<p>スーパーマーケットの仕事の工夫について理解できるようにする。</p> <p>○スーパーマーケットを見学し、店の工夫について、分かったことを話し合う。</p> <p>○文章資料や動画資料から、「売り場の工夫」「働く人の工夫」について調べる。</p>	<p>ノートの記述内容から「見学・調査したり資料などで調べたりして、必要な情報を集め読み取り、仕事の工夫を理解しているか」を評価する。【知】</p> <p>□文章「お客さんの話」(副読本)</p> <p>□文章「店長さんの話」(副読本)</p> <p>□動画・写真「働く人の話」「お店の様子」(副読本・動画資料)</p>

8	品物の産地を調べ、他地域とのつながりについて理解できるようにする。 ○スーパーマーケットで売られている食料品等は、どこから運ばれてくるのか調べ、地図を見て話し合う。	発言や記述から「他地域とのつながりに関して情報を集め、外国を含めた商品の産地や仕入れ先の名称と位置について理解しているか」を評価する。【知】 □文章「仕入れ担当者の話」(副読本) □写真「スーパーマーケットの品物」地図「やさいやくだものつくられたところ」(副読本)
9	消費者の買い物の仕方の工夫や願いを理解し表現できるようにする。 ○文章資料を読みながら、家族(消費者)が買い物をするときの工夫や願いを調べ、分かったことを話し合う。	発言やノートの記事から「消費者の買い物の仕方の工夫や願いを理解し、表現しているか」について評価する。【思】 □文章「家の人の話」(副読本)
10 . 11	スーパーマーケットで働く人々の仕事の工夫についてまとめることができるようにする。 ○これまで学習したことを基に、スーパーマーケットで働く人々の仕事の工夫について話し合い、新聞にまとめる。	新聞の記事から「働く人々の仕事の様子を捉え、工夫を考え、表現しているか」を評価する。【思】 □これまで使用した資料 □児童のノート

(6) 児童アンケートの結果

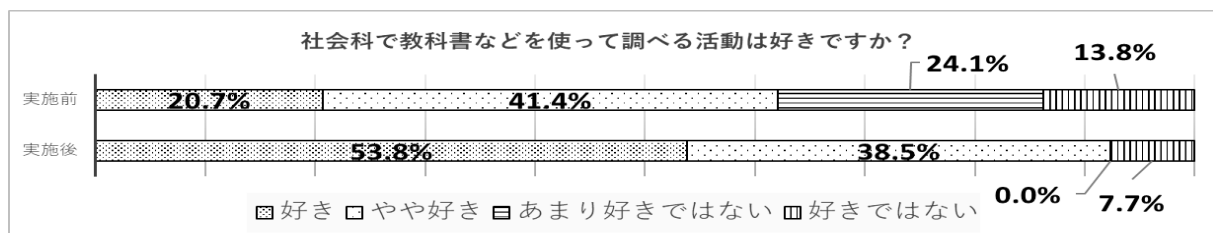


図 1

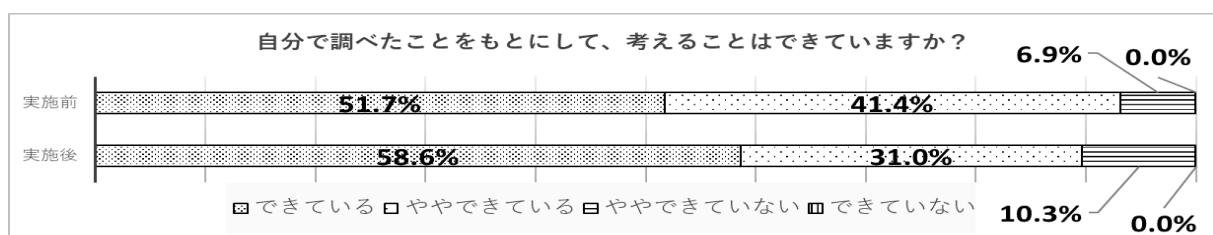


図 2

「社会で教科書などを使って調べる活動は好きですか。」という設問に対し肯定的な回答をする児童の割合が実施前 62.1%から実施後 92.8%と 30.7ポイント増えた(図1)。

実施前のアンケートで、あまり好きではない、好きではないという理由として「調べるのが大変」「面倒くさい」「どこを書けばいいのかわかりづらい」という回答があったが、実施後では、好きな理由として「いろいろな人と相談できる」「みんなでできる」「めあてと同じことを調べられる」という回答が多くみられた。

「自分で調べたことをもとにして、考えることができますか」という設問に対しては、肯定的な回答をする児童の割合の増加が見られなかった(図2)。



(7) ノート記述の変容

	学習問題の予想	学習問題に対する自分の考え
A 児	安く売ると、たくさんお客さんが来るからお金がたまる。	イベントなどをちらしでたくさんの人に知らせている。いろんな商品をお店に置いて季節や好みに合わせてえらべる。お客さんが買いたくなるように目の前によい商品を置いている。スーパーの人はたくさんの人によるこんでもらうように活動していた。だからお客さんもたくさん来るのだと思った。
B 児	品物を多く置いているから。品物を多くしていると、いろんな物があって、いっぱいお客さんが来るから。	品物が足りなくなったり、売れのこりがないように売れ具合を調べたりして注文している。商品のたなは、ななめになっている。ななめだと取りやすいから。スーパーのくふうについて、コンビニも同じようなくふうをしているのかなと思った。わたしが一番いいなと思ったくふうは、リサイクルボックスで、なぜなら、かんきょうにいいと思ったから。
C 児	食品の品ぞろえが、ほうふだから。	お客さんが、いどうするきよりがなるべく少なくなるように、いっしょに使うようなものは近くに置いてある。昔は手作業だったがレジをきかいにすることで、早く正かくにおつりをわたすことができる。スーパーマーケットでは、いろいろなくふうをしているんだなと思った。時代に合わせてやりをかえないといけないので、けいえいするのは大変だと思った。

A児は、消費者の願いと販売する側の工夫を関連付けて考えられるようになった。B児は、販売者の工夫となぜその工夫をするのかを理解できるようになった。さらに、コンビニエンスストアとの共通点にも考えを広げられた。C児は、客の利便性を考えた現在の工夫だけではなく、時間による変化から考察していた。

(8) 成果と課題

- 成果○ 児童が意欲的に調べる活動に取り組むことができた。児童アンケート結果では、「いろいろな人と相談できる」「めあてと同じことを調べられる」「自分の調べやすいもので調べられる」という回答があり、学習環境・資料を選択できる調べ学習の利点を挙げている児童が多かった。一人1台の学習者用端末を活用した動画の視聴も効果的だった。
- 調べた知識を全体で整理・共有し、キーワード化することで、知識の確実な習得につながった。単元末のまとめでは、100%の児童がキーワード化した知識を活用して、「どのような工夫なのか」「何のための工夫なのか」という言葉で説明できていた。
- 話型や振り返りの視点の提示により、思考を深め自分の考えを書くことができる児童の割合が増えた。前単元では、自分の考えを書くことができた児童が37.9%だったが、実施後には89.6%の児童が工夫について自分の考えを書くことができた。
- 課題○ 思考を深めるための振り返りの視点について、本授業では、多くの児童が考えの「理由」（なぜなら）を、言語化し説明することはできていたが、それ以外の視点「比較」等については言語化が難しく、今後も検討していく必要がある。

## 2 検証授業② 第5学年

(1) 単元名 「日本の工業生産と貿易・運輸」

(2) 単元の目標

我が国の工業生産における貿易や運輸について、交通網の広がり、外国との関わりなどに着目して、地図帳や各種の資料で調べ、まとめ、貿易や運輸の様子を捉え、それらの役割を考え、表現することを通して、貿易や運輸は、原材料の確保や製品の販売などに置いて、工業生産を支える重要な役割を果たしていることを理解できるようにするとともに、主体的に学習問題を追究・解決し、学習したことを基に、社会の一員として、貿易の発展について考えようとする態度を養う。

(3) 教材観

本単元では、課題解決段階の後に、生活に生かす段階を設けることが少ないが、「貿易の自由化」が進むことを児童に考えさせるために設定した。貿易のバランスを保つために我が国や外国も様々な工夫や努力をしていることに関心をもたせることで、持続可能な社会の担い手となる意識を高めて、単元を終えるようにした。

(4) 研究主題に迫るための手だて

ア 問いや学習計画の明確化

日本の工業生産は貿易や運輸によって成り立っていることを単元の終末に児童が習得できるように、学習問題に行き着くための資料や学習問題の文言を吟味した。

イ 児童の「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実

(ア) 主体的・意欲的に調べ方を選択できる学習 (学習環境・資料を選択できる調べ学習)

一単位時間の中でグループから個人、個人からグループになるなど、いつでも友達と交流できるようにすることで、児童が主体的に知識を習得することができるようにした。その際、児童の習得した知識や考えが広がり過ぎないように、教科書等のどのページを使うかなどの指定をした。

(イ) 社会的事象等の知識の整理・共有場面の設定 (知識の整理・共有場面)

児童が習得した知識を整理・共有するために、一人1台の学習者用端末を活用した。学習課題・学習問題の解決のために意見共有アプリを活用し、「学習環境・資料を選択できる調べ学習」で調べた内容を小グループまたは個人ごとにキーワード化させて入力させた。全体で知識を整理・共有することで、日本の工業生産を特徴付ける「輸送手段」「モーダルシフト」「天然資源」「加工貿易」などの知識の習得を狙った。

(ウ) 知識をつなげて思考を深めるための工夫

「なぜ国内工業生産額よりも貿易額の方が、伸び具合が大きいのか」という問いから、貿易や運輸の重要性に対する理解・思考を深めた。

ウ 児童の思考が深まる振り返りの書き方の工夫

「理由」「比較」「共通点・相違点」「仮定」「関連」「総合」等の視点を、児童の言葉で例示した。それを基に児童が書いた考えを次の時間の導入で紹介した。

(5) 単元指導と評価の計画（8時間扱い）

時	ねらい ○主な学習活動	□資料 評価【評価規準】
1	<p>交通網の広がり、外国との関わりなどに着目して、問いを見だし、貿易や運輸の様子や役割について学習問題を設定し、予想などを表現する。</p> <p>○身近な工業製品を確認する。</p> <p>○「貿易」「運輸」について知る。</p> <p>○資料を比較して学習問題を設定する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>日本の工業生産と貿易・運輸は、どのような関係にあるのか。</p> </div>	<p>□画像「工業製品の種類の一覧」</p> <p>□自動車専用船</p> <p>□「A社トレーディング」のHP 写真</p> <p>□A社 2023年1月～6月の「国内販売台数」と「輸出台数」の比較グラフ</p> <p>□2021年日本の工業製品貿易金額と輸出・輸入金額</p> <p>発言やワークシートの記述から「交通網の広がり、外国との関わりなどに着目して、問いを見だし、貿易や運輸の様子や役割について学習問題を設定し、予想などを表現しているか」を評価する。【思】</p>
2	<p>交通網の広がりなどについて映像資料等で調べて必要な情報を集め、トラック輸送の様子や役割などを理解する。</p> <p>○本時の課題の解決のために資料から調べる。</p> <p>○本時の課題について分かったことをまとめる。</p>	<p>□動画「わたしたちの暮らしを支えるトラック輸送」</p> <p>□画像「もしもトラック輸送が止まったら」</p> <p>発言やワークシートの記述から「交通網の広がりなどについて、必要な情報を集め、トラック輸送の様子や役割などを理解しているか」を評価する。【知】</p>
3	<p>交通網の広がり、外国との関わりなどについて地図帳や資料等で調べて、必要な情報を集め、読み取り、運輸の様子や役割などを理解する。</p> <p>○工業製品の運輸方法について調べる。</p> <p>○調べたことを共有してまとめる。</p>	<p>□写真「いろいろな輸送方法」（資料集）</p> <p>□図「モーダルシフト」（資料集）</p> <p>□画像「輸送方法の比較」</p> <p>□動画「工業製品が届くまで」</p> <p>ノートの記述や発言から「交通網の広がり、外国との関わりなどについて地図帳や資料等で調べて、必要な情報を集め、読み取り、運輸の様子や役割などを理解しているか」を評価する。【知】</p>
4 ・ 5	<p>調べたことを白地図などに図や文章でまとめ、貿易や運輸は原材料の確保や製品の販売などにおいて、工業生産を支える重要な役割を果たしていることを理解する。</p> <p>○工業製品の貿易について調べ、白地図にまとめる。</p> <p>○調べたことを共有してまとめる。</p>	<p>□動画「日本の貿易」□地図帳「日本の貿易」</p> <p>□図「日本の主な貿易相手国」（資料集）</p> <p>□図「輸入から輸出まで」（教科書）</p> <p>白地図の記述や発言から「調べたことを白地図等に図や文でまとめ、貿易や運輸は、原材料の確保や製品の販売などにおいて、工業生産を支える重要な役割を果たしていることを理解しているか」を評価する。【知】</p>

6	我が国の工業生産における貿易や運輸について学習を振り返り、学習問題を追究し、解決しようとする。 ○学習問題に対する自分の考えを意見共有アプリに入力し、重なった言葉を整理する。	意見共有アプリの記述や発言から「我が国の工業生産における貿易や運輸について学習を振り返り、学習問題を追究し、解決しようとしているか」を評価する。【態】
7	貿易や運輸と工業生産を関連付けて、貿易や運輸の役割を考え、適切に表現する。 ○学習問題に対する自分の考えをまとめる。	□1965年と2020年の工業生産額・貿易額 □工業生産額と貿易額の伸び具合グラフ 記述から「貿易や運輸と工業生産を関連付けて、貿易や運輸の役割を考え、適切に表現しているか」を評価する。【思】
日本の貿易と運輸は、加工貿易の特色がある日本の工業生産にとって、なくてはならない大切なものだ。輸送方法は様々あるので、環境や輸送費用、計画性を考えて工夫して運ばれている。		
8	学習したことを基に消費者や生産者の立場などから、これからの貿易の発展について考える。 ○「貿易の自由化」について知る。 ○これからの貿易について、友達と話し合っ自分の考えをまとめる。	□貿易の自由化のメリット・デメリット □関税とは・外国製品が安くなる理由 ノートの記述や発言から「多角的にこれからの貿易の発展について考えようとしているか」を評価する。【態】

(6) 児童アンケートの結果

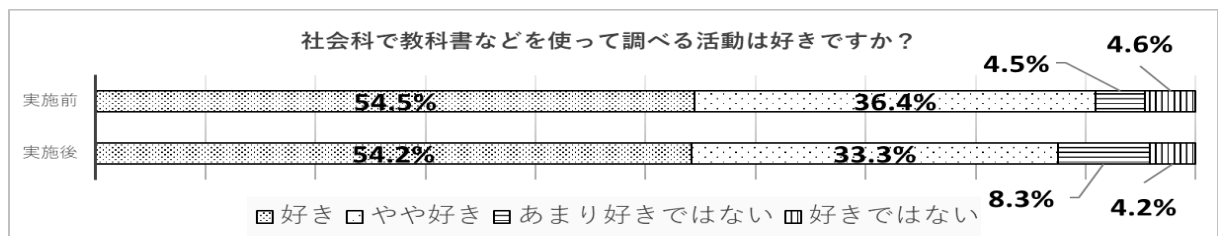


図3

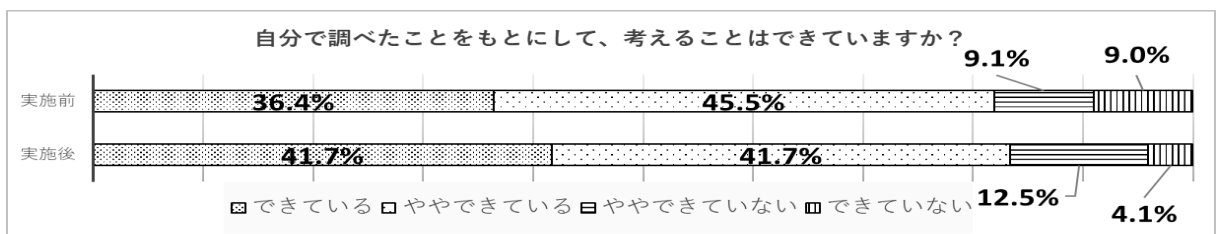


図4

「社会科で教科書などを使って調べる活動は好きですか。」という問いに、肯定的な回答をした児童の割合の増加は見られなかった。(図3)。

「自分で調べたことをもとにして、考えることができますか。」という問いに、「できていない」と回答した児童が、9.0%から4.1%へと4.9ポイント減った(図4)。

(7) ノート記述の変容

	学習問題の予想	学習問題に対する自分の考え
D 児	貿易をするために、飛行機や列車、船やトラックなどで輸送している。石炭や原油などの日本で取れない資源を輸入し、自動車などの機械類を多く輸出している。	日本の工業生産と貿易・運輸は関係があり、日本で作られた物を運輸し、海外に輸出したり、海外から輸入したりしていた。 私は、私たちの生活に貿易・運輸がとても関係していることが分かった。貿易・運輸は私たちの生活を守り、支えている。
E 児	きっと、一つの場所から一つの場所へトラックで部品を送っている。	日本の貿易・運輸は、主にトラック・飛行機・鉄道・船で運んでいる。例えば、トラックは野菜、船・鉄道は重い物を運んでいる。トラックはドライバーの確保も行っている。僕は最初、トラックだけで運んでいるのかと思った。
F 児	トラックで車を運んで、飛行機や船、貨物列車で外国に輸出していると思う。	日本の貿易・運輸は、「時間」「安全」「健康」に気を付け、貨物を入れるコンテナは繰り返し利用するなどの環境に優しい取り組みも行っている。さらに、モーダルシフトを使って効率よく工夫して全国に届けている。 私はこの学習を通して、もし外国から輸入していなかったら外国産の食料品は食べられなくなると思った。

D児は、工業生産と貿易運輸の関係性に注目し、自分たちの生活を支えていることを理解することができた。E児は、運輸の方法に注目し、自分たちのくらしとのつながりを考えることができた。F児は、キーワードを使って、文章を整理し、仮定の言葉「もし〇〇なら」を使って自分の考えを記述することができた。

(8) 成果と課題

成果○ アンケート結果では、どちらのアンケート調査でも、80%以上の児童が肯定的な回答をしている。また、自分で調べたことをもとに、考えることができないとしていた児童が少なくなっている。授業では、「学習環境・資料を選択できる調べ学習」を日常的に他教科領域等でも行い、自分で選択した方法で調べることができたため、より一層主体的・意欲的に調べている様子が多く見られた。

○ 「知識の整理・共有場面」ではデジタル機器を活用して共有したことにより、本単元に必要な社会的事象等に関して理解を深めるための知識である「モーダルシフト」「天然資源」「加工貿易」などの言葉を使って、91.0%の児童がまとめを書くことができた。

○ 振り返りの視点を示したことにより、児童は自分の考えをどのように書けばよいのかを理解することができ、視点に沿った考えを書くことができた。

課題○ 学習環境・資料を選択できる調べ学習の際に、より多くの児童が1単位時間の知識を習得できるように、本時の問いに関わる言葉や、資料からどのようなことを読み取ればよいのかという机間指導が必要である。今後改善を図っていきたい。

### 3 検証授業③ 第6学年

(1) 単元名 「戦国の世から天下統一へ」

(2) 単元の目標

戦国時代の主な事象について、年表などの資料でキリスト教の伝来や織田信長や豊臣秀吉が行った政策を調べてまとめ、二人の武将の役割を考え、表現することを通して、戦国の世が統一されたことを理解し、主体的に学習問題を追究・解決しようとする態度を養う。

(3) 教材観

「課題設定」の段階の学習問題をつくる活動では、疑問をもたせる資料の提示の仕方を工夫し、児童それぞれの課題意識を学習問題に反映させた。学習計画を立てる活動では、授業ごとに調べる内容を明確にした。「課題追究」の段階では、「学習環境・資料を選択できる調べ学習」を取り入れ、自分に合った資料を選択させた。「課題解決」の段階では、織田信長と豊臣秀吉の働きについてキャッチフレーズを考えることができるようにした。

(4) 研究主題に迫るための手だて

ア 問いや学習計画の明確化  
学習問題のキーワードである「誰が」「どのように」を予想の視点とし、「学習環境・資料を選択できる調べ学習」に向けて、調べる内容を明確にした。

イ 児童の「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実

(7) 主体的・意欲的に調べ方を選択できる学習 (学習環境・資料を選択できる調べ学習)

児童が調べ学習をする際に、「学習環境」、「資料」を選択できるようにした。

(4) 社会的事象等の知識の整理・共有場面の設定 (知識の整理・共有場面)

意見共有アプリを利用し、「学習環境・資料を選択できる調べ学習」で調べた内容をお互い比べられるように小グループまたは個人ごとにアップロードさせた。また、具体的な政策とその影響を考え、政策を分類させることにより、「楽市・楽座などの経済に関する政策」や「刀狩などの統治に関する政策」のように知識を整理できるようにした。

(ウ) 知識をつなげて思考を深めるための工夫

戦国の世における外国との関わりについて調べる授業で、外国から日本に取り入れられたものを調べた上で、「外国との関わりによって日本はどのような影響を受けたのだろうか」と発問し、手掛かりとなる資料を提示するなど、全体で知識の整理・共有を行った後、知識をつなげて思考を深めることができる発問や資料提示を工夫した。

ウ 児童が思考の深まる振り返りの書き方の工夫

本単元では、注目させるキーワードを、**人物**、**政策**、**影響**として捉え、「～が分かった。わたしは、**人物**の政策で天下統一につながったのは～であると思う。その理由は～からだ。」の話型を提示し、「分かったことに対する自分の考え」の「理由」を書くことができるようにした。また、学習問題に対する自分の考えをまとめる活動でも、「**人物**は、戦国の世を終わらせるために**政策**。これによって、**影響**、天下統一に近づいた(つながった)。」の話型を提示し、織田信長と豊臣秀吉の政策のつながりと世の中への影響を意識させた。キャッチフレーズとその理由を書く活動では、自分や友達のを考えを基に、二人の武将が戦国の世の中で果たした役割について短い言葉で表現させた。キーワードや話型を示すことで、社会科における見方・考え方を働かせながら記述できるようにした。

(5) 単元指導と評価の計画 (6時間扱い)

時	ねらい ○主な学習活動	□資料 評価方法と【評価規準】
1	<p>戦国の世の中の様子や戦国の世が統一されたことについて捉え、学習問題を設定する。</p> <p>○「長篠合戦図屏風」の資料から、戦国大名やそれぞれの軍の戦い方の特徴を読み取る。</p> <p>○長篠の戦いで共に戦った織田信長と豊臣秀吉が天下を争うことや天下統一がなされ、戦国の世がおさまったことを理解する。</p> <p>○調べたいことをまとめ、学習問題をつくる。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content;"> <p>戦国時代は、だれが、どのように、全国を統一していったのだろう。</p> </div>	<p>ノートの記述や発言から「戦国の世の中が統一されていく様子や、豊臣秀吉らの働きなどに着目して問いを見いだしているか」を評価する。【思】</p> <p>□図「長篠合戦図屏風」(教科書)</p>
2	<p>戦国の世が統一されたことに関心を持ち、学習問題に対する予想や年表を基に学習計画を立てる。</p> <p>○学習問題について予想を立てる。</p> <p>○予想について、年表を基にして話し合う。</p> <p>○これから調べていくことを全体で話し合い、学習計画を立てる。</p>	<p>ノートの記述や発言から「キリスト教の伝来、織田信長や豊臣秀吉について、学習問題の解決の見通しをもっているか」を評価する。</p> <p>【態】</p> <p>□年表「織田信長と豊臣秀吉」(教科書)</p>
3	<p>戦国の世における外国との関わりについて調べ、キリスト教が伝えられたり、南蛮貿易でヨーロッパの進んだ文化や品物が入ってきたりするなど、日本に様々な影響をあたえたことを理解する。</p> <p>○日本と外国の関わりについて調べる。</p> <p>○調べたことを意見共有アプリで整理・共有する。</p> <p>○ヨーロッパの進んだ文化や品物が入ってきたことによる日本への影響について考える。</p> <p>○学習のまとめを書く。</p>	<p>ノートの記述や発言から「外国との関わりが日本に様々な影響をあたえたことについて理解しているか」を評価する。【知】</p> <p>□図「南蛮貿易の様子」(教科書)</p> <p>□グラフ「キリスト教徒の増加」(教科書)</p> <p>□動画「南蛮貿易」(動画資料)</p>
4	<p>織田信長が全国統一に向けて行った政策について調べ、織田信長が短期間に領土を拡大したことを理解する。</p> <p>○織田信長が全国統一に向けて行ったことを調べる。</p> <p>○調べたことを意見共有アプリで整理・共有する。</p> <p>○学習のまとめを話型に沿って書く。</p>	<p>ノートの記述や発言から「ザビエルによりキリスト教が伝わったことや、織田信長が鉄砲を多用して短期間に領土を広げたことを理解しているか」を評価する。【知】</p> <p>□地図「信長の勢力拡大の様子」(教科書)</p> <p>□図「力を伸ばす織田信長」(資料集)</p> <p>□動画「楽市楽座」(動画資料)</p>

5	<p>豊臣秀吉の全国統一の様子について調べ、豊臣秀吉が検知や刀狩などの政策を行い、全国を統一したことを理解する。</p> <p>○豊臣秀吉が全国統一に向けて、行ったことを調べる。</p> <p>○調べたことを意見共有アプリで整理・共有する。</p> <p>○学習のまとめを話型に沿って書く。</p>	<p>ノートの記述や発言から「豊臣秀吉は織田信長の後に受け継ぎ、検知や刀狩などの政策を行い、全国を統一したことを理解しているか」を評価する。【知】</p> <p>□図「秀吉が出した刀狩令」（教科書）</p> <p>□図「天下統一をなしとげた豊臣秀吉の政策」（資料集）</p> <p>□動画「刀狩」（動画資料）</p>
6 (本時)	<p>織田信長と豊臣秀吉の働きや学習問題についてまとめ、戦国の世を統一した二人の武将の役割を考える。</p> <p>○学習問題に対する考えをまとめる。</p> <p>○学習問題に対する考えについて話し、意見共有アプリで共有する。</p> <p>○調べたことを基に織田信長と豊臣秀吉の働きのキャッチフレーズとその理由を考える。</p>	<p>ノートの記述や発言から「調べたことを文などにまとめ、二人の武将の働きにより、戦国の世が統一されたことを理解しているか」を評価する。【知】</p> <p>キャッチフレーズやノートの記述から「既習事項を生かして、戦国の世を統一した二人の武将の役割を考え、適切に表現しているか」を評価する。【思】</p>

(6) 児童アンケートの結果

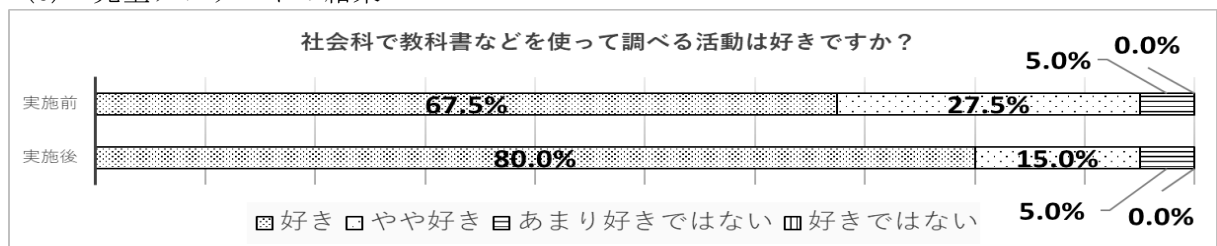


図 5

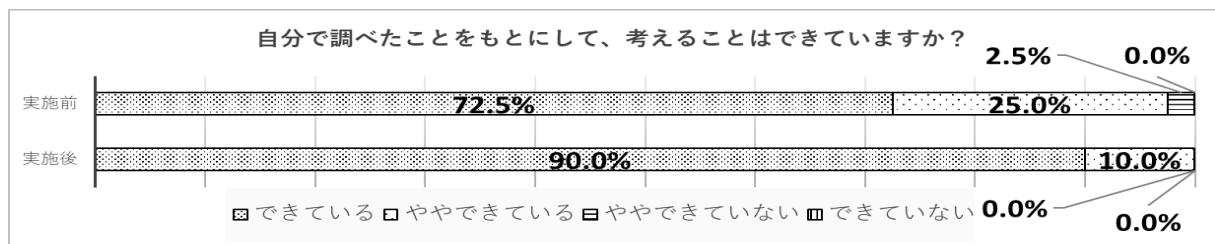


図 6

「社会で教科書などを使って調べる活動は好きですか。」という設問に対し「好き」と回答をした児童の割合が 12.5 ポイント増えた (図 5)。

「自分で調べたことをもとにして、考えることができているか。」という設問に対し肯定的な回答をした児童が 100%となった (図 6)。



(7) ノート記述の変容

	学習問題の予想	学習問題に対する自分の考え
G 児	織田信長は長篠の戦いやいろいろな戦いに勝利し、天下統一に近づいた。豊臣秀吉は、明智光秀と戦い勝利し、天下統一した。	織田信長は戦国の世を終わらせるために、楽市楽座をした。これによって、たくさんのお金を得て、武器で戦うことができるようになり、天下統一に近づいた。豊臣秀吉は、戦国の世を終わらせるために、検地などをした。これによって確実に年貢を納めさせることができるようになり、天下統一をした。
H 児	織田信長は、国民の負担を減らしたり、各地の武士をたおしたりしたから天下統一に近づいた。豊臣秀吉は、織田信長をたおし、明智光秀をたおしたから天下統一した。	織田信長は戦国の世を終わらせるために、大阪府の堺を支配した。これによって、たくさんのお金が得られたので、その資金を武器にあてることで戦いに優位な立場になり、天下統一に近づいた。豊臣秀吉は、戦国の世を終わらせるために、刀狩や太閤検地をした。これによって、百姓から武器をうばい、相手を反抗できなくし、検地では全国の田畑の面積を調べ、確実に年貢を納めさせたことにより、天下統一した。
I 児	織田信長はみんなに優しく、いろいろな強い武士をたおして天下統一に近づいた。豊臣秀吉は、「神様(キリスト教)を信じてもいいよ」と言ったから天下統一に近づいた。	織田信長は戦国の世を終わらせるために今川氏を破った。これによって天下統一に近づいた。豊臣秀吉は、戦国の世を終わらせるために刀狩をした。これによって、天下統一をした。

G児やH児は学習問題の予想で戦いに勝利することが天下統一に近づくと考えていたが、学習問題に対する自分の考えでは、織田信長と豊臣秀吉の政策と天下統一への影響を関連させて、記述することができた。また、I児は学習問題に対する自分の考えで、学習問題の予想では見られなかった織田信長の戦いの相手や豊臣秀吉の重要な政策について挙げるなど、事実に基づいて記述することができた。

(8) 成果と課題

成果○ 「学習環境・資料を選択できる調べ学習」では、多くの児童がグループで取り組んだ。学習する環境を自分で選択することにより安心して調べる活動に取り組むことができ、意欲が高まった。

- 「学習環境・資料を選択できる調べ学習」で調べたことを意見共有アプリで共有・整理することで、十分に調べることができなかった知識を得ることができた。
- 学習問題に対する自分の考えをまとめる活動及びキャッチフレーズとその理由を書く活動では自分のノートを何度も見直す児童の姿が見られた。84.0%の児童が「学習環境・資料を選択できる調べ学習」で習得した知識や一単位時間ごとのまとめを生かし、単元のまとめることができた。

課題○ 友達のを考えを基に自分の考えを深められるようにするためには、考えを十分に交流する時間の確保が必要であった。

- 最終的には話型がなくても自分の考えをまとめられるように、指導を継続する必要がある。

## VII 研究の成果と課題

抽出校4校で単元の事前と事後にアンケート調査を行い、その結果を分析した。児童のアンケート結果と合わせてノートの記事も分析した。

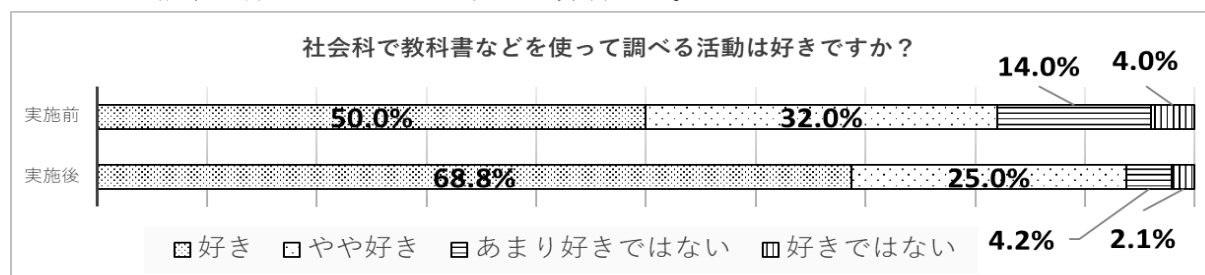


図7

「好き」及び「やや好き」と回答した児童の割合は、82.0%から93.8%に増加した(図7)。「学習環境・資料を選択できる調べ学習」では、学習環境や資料を児童に選択させることにより、意欲的に学習を進められたからだと考えられる。また、「あまり好きではない」及び「好きではない」と回答した児童の割合は、18.0%から6.3%に減少した。学習環境・資料を選択できる調べ学習によって、友達の意見を聞きながら学習を進めたり、資料を選べたりできたため、社会科に対して苦手意識のある児童にとっても意欲的に取り組むことができるようになったと考えられる。

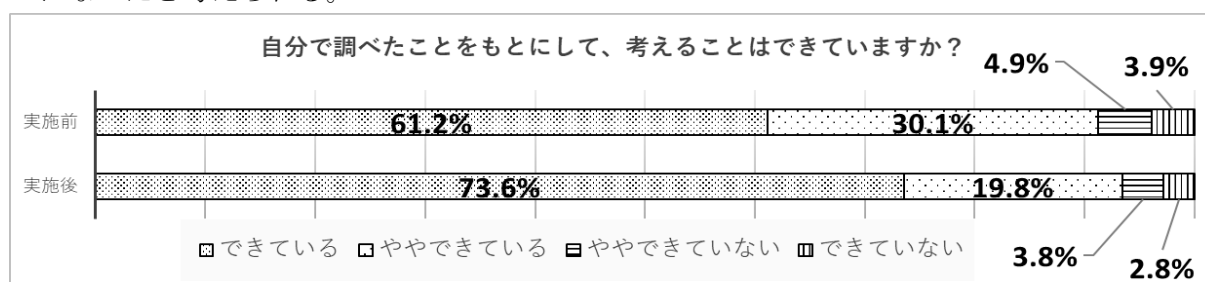


図8

「できている」と回答した児童の割合が61.2%から73.6%に増加した(図8)。本時の課題を明確にした上で、知識の整理・共有場面を設定したことで、調べて習得した知識を使って考えようとする児童が増えたと言える。また、児童のノートから「学習問題に対する自分のまとめ」の記事を分析した結果、事前に教師が習得させたいと考えていた知識を書くことができた児童の割合は88.5%であった。知識の整理・共有場面を設定したことにより、どの学級においても調べて習得した知識を活用して記述することができ、知識を確実に習得した児童が増えたと考えられる。さらにノートの分析を進め、調べて習得した具体的な知識を活用し、社会的事象の見方・考え方を働かせながら思考を深めていると判断できた児童の割合は72.5%であった。思考することが苦手な児童に対して教師が振り返りの視点を提示することで、児童自身が自分の考えの書き表し方を理解し、視点に沿った考えを記述することができたと考えられる。

その一方で、授業の進め方についての課題が見られた。一単位時間の学習活動に「学習環境・資料を選択できる調べ学習」「知識の整理・共有場面」「思考を深める場面」の3つを設定することは、それぞれの活動において十分な時間を配分することが難しいことが多い。そのため、活動時間のバランスを考慮して計画を立てることが必要である。

# 令和5年度 教育研究員名簿

## 小学校・社会

学 校 名	職 名	氏 名
中 央 区 立 月 島 第 三 小 学 校	主任教諭	中 野 慶 祐
大 田 区 立 赤 松 小 学 校	主任教諭	鈴 木 翔 太
足 立 区 立 花 保 小 学 校	指導教諭	金久保 成 美
三 鷹 市 立 第 七 小 学 校	主任教諭	◎後 藤 裕 介
小 金 井 市 立 小 金 井 第 二 小 学 校	主任教諭	大 野 桃 子
小 平 市 立 学 園 東 小 学 校	主幹教諭	竹 内 弘 宣
福 生 市 立 福 生 第 一 小 学 校	主任教諭	上 條 大 樹
羽 村 市 立 羽 村 東 小 学 校	主幹教諭	今 津 好 康

◎ 世話人

〔担当〕 東京都教育庁指導部義務教育指導課  
課長代理 中村 智彦

令和5年度  
教育研究員研究報告書  
小学校・社会

令和6年3月

編 集 東京都教育庁指導部指導企画課  
所 在 地 東京都新宿区西新宿二丁目8番1号  
電話番号 (03) 5320-6849